



VIAGGIO IN ITALY



大森愛子のイタリア紀行
AIKO OMORI PRESENTI

ソムリエ。ワインスクール講師。
全国15カ国以上を旅したのち、何だか面白そうなイタリアに移住。
現在、定職・定住地なし。強運のみを頼りに移動生活を続ける。
旅の最大の目的は、それぞれの国の人人が何を大切にしているのか
を知ること。

2015 12 22

世界一のパスポート

日本からの直行便でローマを目指すと、約12時間のフライトでローマの国際空港であるフィウミチーノ空港(別名レオナルド・ダ・ヴィンチ空港ともいう。しかし言いにくいので、誰もその名前では呼ばない。)に到着します。

一時帰国から戻った2月、現在近隣の国の情勢も心配ですし、いつもほぼノーチェックの入国審査も少しは厳しくなっているかもしれないな、と思いつつカウンターに差し出したえんじ色の日本のパスポートは、開かれることもなく、——もちろん入国スタンプを押されることもなく、そのまま私の手に返されました。
さすがは絶大な信頼を置かれるわが国のパスポート! フリー・パス! …いいのかそれで。



イタリア全土を巡るトレニタリア



トレニタリアのロゴマーク

イタリア国鉄 TRENITALIA

空港から市内への交通手段は、鉄道、バス、タクシーのいずれかを利用するのが一般的で、私はいつも国鉄のトレニタリアを使っています。

鉄道の駅構内には改札口が無いため、乗ろうと思えば切符がなくてもそのまま乗車できてしまいますが、タダ乗りは絶対にいけません。違法です。それは言うまでもありませんが、

切符なしで乗車できたとしても、乗車中に車内で検札があるため、無賃乗車や、切符に刻印がない乗客はその場で高額な罰金を支払うことになるのです。

この刻印という制度、慣れていないと面倒ですが、イタリア国鉄を利用する際は覚えておかなければなりません。駅に改札口はありませんが、その代わりに乗車前にホームの入り口にある自動検札機を使って切符に日付と時間を印字しておくことが乗車のしとなり、刻印を忘れるなど、たとえ切符を購入して運賃を支払っていても罰則として違反金をとられてしまいます。



電車はめったに時間通りに来ないし、毎回必ず乗務員が切符をチェックしてまわるわけでもなし、適当なイタリアのこと、まあ大丈夫だろうとタカをくくって刻印をせずに乗車すると、えらい目にあいます。車掌が現れないという不確かな確率に賭けてズルをしようとする人が後を絶たないため、日本人だから知らなかった、うっかり忘れていて悪気はなかった、という言い訳が検札時には絶対に通用しません。

イタリアは罰則に対する制度だけは整っているので、入国スタンプは押されなくとも切符にスタンプを押すことは忘れないでください。



タダ乗りが許された日

自分の方に明らかな非があっても、人情を信じて、相手がうんと言うまで粘り強くお願いしてみる、というチャレンジ精神の持ち主がイタリアには大勢いますが、どんなに哀れを誘う言い訳をくりだしても、鉄道の違反金から逃れられた人は私の周りにほとんどいません。

しかしもちろん例外はあります。運良く難を逃れた友人の話をしましょう。



こちらは自動券売機。切符は
biglietto[ビッリエット]と言います。



券売機もよく使われています (ーーー;))
切符はバー/レセナ/タバッキでも購入できますよ。



フィウミチーノ駅の券売所

日本人の彼女はローマでの生活も長く、観光で日本からのお友達が彼女を頼ってローマを訪れる事もしばしば。そんな時はガイドに徹し、友人にローマの街を案内してあげるそうです。友人たちとの数日にわたる観光地巡りも最終日のこと、普段しっかりしている彼女ですが、それまでの予定を無事こなせたことで気が抜けたのか、最後の最後、空港までの電車であろうことか切符の刻印を忘れてしまつたのです。

検札に来た乗務員に指摘されて事態に気付いた彼女。

自分だけならともかく何も分からない友人達の人数分の罰金を考えると、その合計はけっこうな額に。青くなりながら、そんなきまりがあったのね、何も知らなくて…と応対してみるも手応えはゼロ。早口のイタリア語でまくし立てる車掌を相手に何とか粘ってみても、鋼鉄の表情で「NO」と返されるだけ。

観念して支払うしかないと諦めかけた彼女ですが、責任感からかお友達に申し訳ないという気持ちがつのり、

涙ぐんでしまったそうです。

そのとき、近くに座っていた乗客のおじさんから彼女に加勢する声があがりました。

「さっきから聞いてたけど、そんな言い方ではないんじゃない?」

この外国の子たち、何も分かっていないのに。かわいそうに。泣いてるじゃないか。」

さっすがは女の子に優しいイタリア人男性!

事の成り行きをうかがっていたほかの乗客からも、「あまりに心無い言い方だ。」「もう日本に帰るだけなんだし、イタリアに悪い思い出を作らせるな!」と同調の声。

「だいたいこの電車だってかなり遅れて運行しているのに、支払う義務なんかあるか!」

この発言には車掌も胸が痛かったのか、形勢逆転。乗客の怒りの矛先が毎度毎度の電車の遅れに向かっていることを察し、「ここまで運賃はもういいから、次の駅で降りなさい。」そう言い残して立ち去っていったのです。

車掌の姿が見えなくなるやいなや、車内からはピューーと口笛と拍手。

定刻より大幅に遅れて発車した電車内でのこと、乗客のフラストレーションが爆発しただけかもしれません、結果オーライ。

これが私が聞いた罰則を逃れられた唯一の例です。

万策尽きても、まだ何とかなるかもしれない、そう信じて粘ってみると、この国ではドラマが起こるようです。

とはいって、これはあくまでも例外。快適な電車の旅のために切符の刻印はお忘れのないように!

